

SCHEDULE

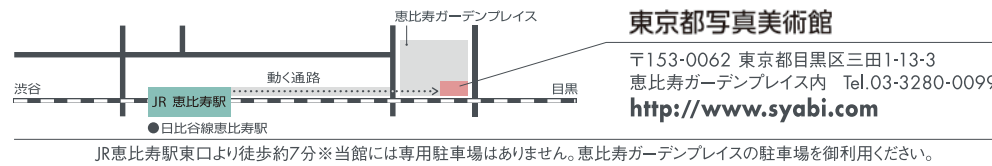
東京都写真美術館展覧会スケジュール

2013	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
3	 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編 3月5日(火)～5月6日(月・振休)	 アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密 3月5日(火)～5月6日(月・振休)	APAアワード2013 3月2日(土)～3月17日(日)	 『わすれない ふくしま』 3月2日(土)～3月29日(金)
4	 『写真のエステ』 五つのエレメント 5月11日(土)～7月7日(日)	 日本写真の1968 5月11日(土)～7月15日(月・祝)	マリオ・ジャコモッリ 写真展 3月23日(土)～5月12日(日)	 『ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの』 3月30日(土)～
5	 吉崎一人《猪熊其二》『吉崎一人 作品アルバム3』より セラチン シルバープリント 1938-1941年頃 『写真のエステ』 作り方のエレメント(仮称) 7月13日(土)～9月16日(月・祝)	 米田知子 暗なところで逢えれば(仮称) 7月20日(土)～9月23日(月・祝)	第38回JPS展 5月18日(土)～6月2日(日)	 世界報道写真展2013 6月8日(土)～8月4日(日)
6	 『写真のエステ』 自然のエレメント(仮称) 9月21日(土)～11月17日(日)	須田一政 9月28日(土)～12月1日(日)	岩合光昭写真展 8月10日(土)～10月20日(日)	
7			写真新世紀東京展2013 10月26日(土)～11月17日(日)	
8				
9				
10				

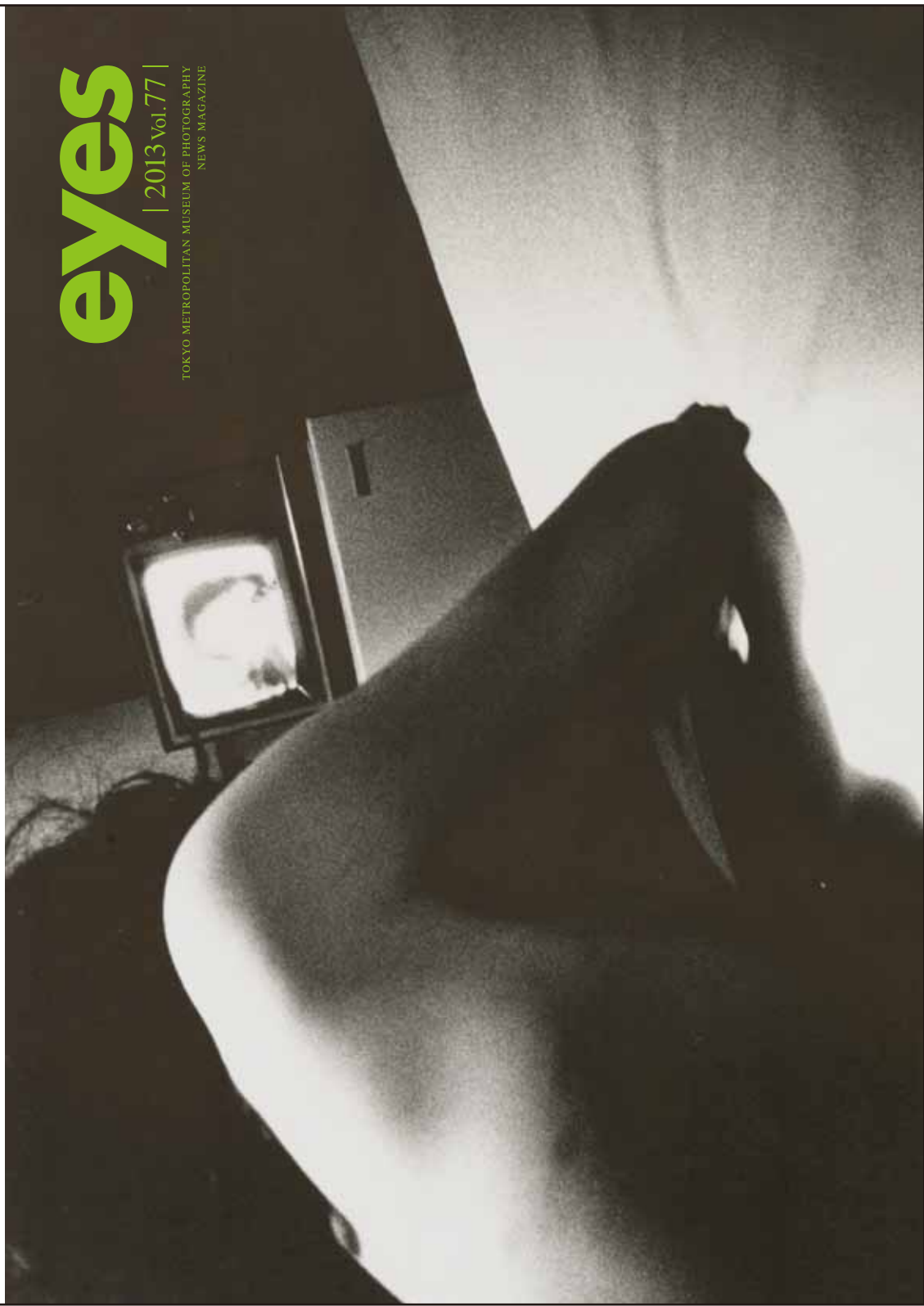
※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内 ●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日) ※ただし4月30日は臨時開館
●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売 3展示をすべて鑑賞できる「セット券」、2展示を選べる「チョイス券」を販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ13」77号 ●発行日：2013年3月4日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2013 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



日本写真の1968

1968 – JAPANESE PHOTOGRAPHY

写真はそれだけで成立するものではなく、人々の生き様や思想、様々なカルチャーと密接にかかわり合いながら、ともに立ち上がってくるものなのではないか？そして、その流れは、もしかしたら、ロック、ジャズ、フォーク、ニューミュージックと、各時代を彩った音楽の変遷と似ていると言っても良いかもしれない。1968年。まさに、世界中が革命や社会運動など激動の中にあつた時代、他のカルチャーと呼応するように、写真表現は大きな節目を迎え、日本独自の表現が新たに芽吹いた時期でもあつた。この年を軸に展覧会を企画した当館の金子隆一専門調査員に、1968年とその時代の写真について、話をきいてみた。

ここ数年、美術館や出版界で日本の1960年代、70年代がさかんに取り上げられています。特に写真作品に対する海外からの注目度が増しているとききました。「この時代、日本では全共闘（全学共闘会議）を主体とする学生運動が過激さを増して、機動隊が動員されるといった事態に発展したり、強権的な空港建設に異議を唱えた三里塚闘争が社会問題化していました。若い写真家や学生たちは、学生運動であれば学生の側、三里塚であれば闘争する農民の側に立って撮ることがが基本的な姿勢であり、だからこそ彼らは当事者に受け入れられて、現場で自由に撮ることができました。ところが、フランスでは1968年にパリ五月革命と呼ばれる反体制運動の嵐がまきおこり、アメリカではベトナム反戦の大規模な運動が繰り広げられていたのに、それらを記録したものは雑誌社や新聞社のカメラマンが撮った報道写真しか残っていないのだそうです」



つまり、当事者の側に立ち、つぶさに記録するという写真のあり方が、図らずも日本独特のものとしてとらえられているということですか？

「そのような写真はアメリカにもフランスにもないそうです。パリ五月革命にしても、学生たちが日々どんなふうにも暮らしていて、どんなことが起きていたのか、そういう全体を撮ろうとしたものはないと聞いています。もちろん、当時撮影していた人たちは、目の前にある現実をなんとかしたいという一心でやっていたわけで、日本独特の写真を撮ろうなどと思っていた訳ではないんですが、結果的に、今そのようにとらえられているわけです」

激動の時代の中でも、特に1968年に焦点を当てた展覧会を企画された目的は何なのでしょう？

「本展で取り組みたいのは、実は写真の表現の問題ではないんです。それよりも、写真というものが、どういう状況の中で成り立っているのか、その枠組みを解き明かすことができたら良いなと思っています。そして、象徴的な出来事がいくつも起きた1968年という年は、そういった視点で日本の写真を見る、とても良い切り口になるのではないかと考えたわけです」

1968年というと、伝説的な写真雑誌として度々取り上げられる「プロヴォーク 思想のための挑戦的資料」が創刊されていますね。

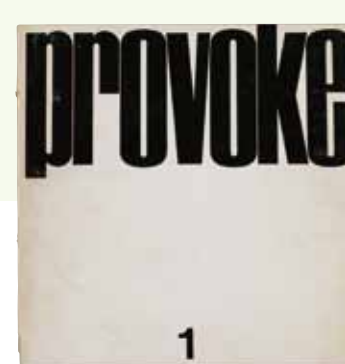
「写真というのは、ちゃんとピントがあって、ものの細部まできちんと写っていなければならない、それが写真の写真たるゆえんであるというのが、それまでの一般



武林盛一「幌内駅」1871-1880年頃

「写真100年—日本人による写真表現の歴史展」

1968年、日本写真家協会が開催した、日本の写真史が写真家自身によって体系づけられた展覧会。東松照明を中心に多木浩二、中平卓馬、内藤正敏、松本徳彦らが資料の収集と調査を行った。北海道開拓写真の再評価、桑原甲子雄や植田正治の再発見、アノニマス（無名性）の写真への注目など、日本の写真史に新しい歴史観を構築した。



「プロヴォーク 思想のための挑戦的資料」

1968年11月に、中平卓馬、多木浩二、高梨豊、岡田隆彦（詩人）を同人として刊行された写真雑誌（2号より森山大道が参加）。アレ・ブレ・ボケの表現で、近代的写真表現が構築した「写真」の枠組みを根源的に問いかけた。

的な認識であり、近代写真の枠組みでもありました。ところが、プロヴォークの写真家たちが発信したのは、俗にいうアレ・ブレ・ボケ写真、簡単に言えば何が写っているのかわからない写真だった。つまり、近代写真が作り上げてきた枠組みを、徹底的に破壊することが彼らの最大の目的であったのではないかと思います」

それがとても格好良く見えるのは、同人であった多木浩二や中平卓馬の挑発的な文章の力もありましたよね。

「まさにアジテーション（扇動）ですね。実際、中平卓馬は当時の学生運動の主要なアジテーターでもありました。結局、革命はおきなかったわけですが、学生運動に没頭した学生だけでなく、音楽や映画や演劇の世界でも、みんなそれぞれが自分たちのヴィジョンを持とうとした時代だったし、写真家もそういった大きな時代の流れの中で写真を撮っていたと言って良いと思います」

一方、コンボラ写真という言葉が世に出て注目されました。「この用語の基になっているのは、1966年にアメリカで開催された「コンテンポラリー・フォトグラファーズ 社会的風景に向かって」という展覧会です。展覧会カタログが輸入されて、私的な視点で世界を撮るという写真のあり方が

表紙）森山大道「無題」『プロヴォーク』第2号より 1969年 ※表紙は部分 1）桑原甲子雄「東京昭和十一年」1935年 2）『プロヴォーク』1号表紙 1968年11月1日



左) 10.21とはなにかを出版する会「10.21とはなにか」1969年 右) 三里塚写真の会「三里塚」より 1971年

「写真の叛乱」

70年の安保改定を前にして学生たちは、情況を変革しようと、大学構内から路上へ、そして空港建設反対を唱える三里塚の農村まで、あらゆる場所へと叛乱してゆき、闘争は日常となった。学生や農民たちの側に立って撮影した写真群に加え、今回初めて全日本学生写真連盟の学生・OBの集団撮影行動による写真群を紹介する。集団的無名性によって撮影・発表された作品は、今なお問題を投げかける。

注目され、リー・フリードランダーなどの表現が話題になりました。そして、1968年に雑誌「カメラ毎日」で、このような写真が取り上げられたわけですが、この時、コンボラ写真という言葉もメディアで最初に使われたようです」

日本のコンボラ写真の特徴はどんなものですか？

「問題になるのは、日常性、私性というものではないかと思っています。プロヴォークの写真を、何が写っているのか分からない写真であったとするならば、コンボラ写真は、何が写っているのかは分かるけれども、何を撮ったのか分からない写真と言えるかもしれません」

つまり、あまりに日常的なものが写っているがゆえに、写真の意図が分からない、ということですね。それまで、作品として日常を写真に撮るといことはあまりなかったのでしょうか？

「普段生活している中で見ている何気ない光景を撮るといことはまずなかったし、荒木経惟が1971年に発表した「センチメンタルな旅」のように、自身の新婚旅行をそのまま赤裸裸に全部撮るなんてことはあり得ませんでした。しかも、それこそが写真だと荒木は言ったわけです。新婚旅行の写真は私の愛のそのものである、これこそが写真であり、それ以外は全部嘘っぱちだ、というわけです」

お話をうかがっていると、当時の写真の動向が、まるでロックやフォークソング、ニューミュージックといった音楽の流れと重なって見えてきます。

「まさに、そんなふうにとらえてもらっても良いと僕は思っています。荒木経惟の作品から感じる気分が、井上陽

水の「傘がない」を聴く時のそれととてもよく似ているというのは、決して否定できない感覚だと思うし、この写真を撮っていた人たち、この写真を見ていた人たちはみんな、私たちと同じように音楽を聴き、映画をみ、小説を読み、演劇を観ていたわけですから」

時代とともに立ち上がってくるのが写真だということなんですね。

「変な言い方だけど、展覧会を見終わって時代の気分だけでも分かってもらえれば良いんじゃないかと思っています。学生運動の写真を格好良いとみられてしまうのは、当時、その中にいた人たちからすればとんでもない、俺たちはこの写真を撮るために命をはっていたんだと言われるかもしれない。でも、時を経た今の時代の人々が、そういう写真を観て、熱い時代だなんて思う、これもまた正直な気持ちだと思う。そこから興味を持って、



ユニット'69「'69幻実 日本」石川島播磨重工 1969年

更に先に進んで考えてもらえるきっかけになれば、本展は大成功だと思っています」

インタビュー・構成 富田秋子

「コンボラ写真」

「コンテンポラリー・フォトグラファーズ 社会的風景にむかって」(1966年12月 ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真博物館)の写真表現と共通する、現実への態度を持つ日本の若い写真家たちの動向を、大辻清司が「コンボラ写真」と紹介した(「カメラ毎日」1968年6月)。日常への私的なまなざしを特徴とする写真表現は、若い世代の写真家たちに「写真」の新しい可能性をもたらした。



牛腸茂雄 シリーズ「日々」より 1971年

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

5月11日(土) → 7月15日(月・祝)

日本写真の1968

1968 - JAPANESE PHOTOGRAPHY

一般 600(480)円 学生 500(400)円 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都 東京都写真美術館



森山大道「無題」『provoke』季刊第2号より 1969年

>> 出品予定作家

東松照明、森山大道、中平卓馬、高梨豊、田本研造、武林盛一、桑原甲子雄、牛腸茂雄、鈴木清、新倉孝雄、田中長徳、田村彰英、渡辺眸、ユニット69 ほか

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

1960年代後半は、戦争、革命、暗殺など、世界中のあらゆる領域でこれまでの枠組みに対して新たな行動が勃発した時代でした。写真においても、近代的写真が構築した「写真」の独自性とそれを正当化する「写真史」への問いかけが始まりました。特に1968年は、今日の「写真」の社会的な枠組みを考える上で重要な出来事が集中して現れました。

本展では、「写真100年—日本人による写真表現の歴史展」、「プロヴォーク 思想のための挑戦的資料」、「コンボラ写真」、「写真の叛乱」の4つのキーワードから展覧会を構成し、1966~74年の日本で「写真」という枠組みがどのように変容していったかをたどり、「写真とは何か?」を考えます。

※シンポジウム「日本写真の1968」(仮称)

日時：6月15日(土) 14:00~17:00 1階ホール(定員190名)
出演：倉石信乃(明治大学准教授)／金子隆一(当館専門調査員)ほか
※本展覧会の半券をお持ちの方に当日10時より整理券配布。
番号順入場、自由席。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月5日(火) → 5月6日(月) [振休]
前期:3月5日~4月7日 / 後期:4月9日~5月6日

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編
Dawn of Japanese Photography: Hokkaido and Tohoku

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□主催:東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □協力:日本大学芸術学部
□協賛:ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ放送網

本展では、北海道・東北の約2,400ヶ所の施設へのアンケート調査を基に、学芸員の現地調査で明らかになった幕末～明治期の貴重なオリジナルの写真作品・資料を展覧します。写されたイメージだけでなく、台紙やデザイン、写真と同じモチーフを描いた錦絵、石版画、写真素材など、北海道・東北の初期写真の時代をダイナミックに感じる展示です。

巡回展情報

本展は、下記の日程で巡回を予定しています。
□ 北海道立函館美術館(5月18日~7月14日)
□ 鶴岡アートフォーラム(7月20日~8月25日)
□ 郡山市立美術館(11月2日~12月15日)

田本研造カ 《土方歳三像》明治二年頃撮影 後年のプリント セラチン・シルバー・プリント 函館市立中央図書館蔵(部分)(後期展示)

❖ 特別パネルディスカッション
「明治期天災記録写真と写真技術」

日時:4月6日(土) 18:30~20:00 定員:190名
出演:石黒敬章(ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員)
高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)
※本展覧会の半券をお持ちの方に当日10時より整理券配布。番号順入場、自由席。

❖ デジタルデータでプリントする
鴉卵紙制作ワークショップ

日程:4月20日(土)、4月21日(日)
各10:00~17:00 ※詳細はホームページをご確認ください

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー

本展会期中の第1・3金曜日および4月28日(日)、29日(月・祝)、5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)、6日(月・振休) 各日16:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

地下1階展示室

3月23日(土) → 5月12日(日)

マリオ・ジャコメッリ 写真展

THE BLACK IS WAITING FOR THE WHITE

□ 一般 1,000(800)円 □ 学生 800(640)円
□ 中高生・65歳以上 600(480)円()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料□主催:青幻舎/NADiff/PARCO □共催:東京都写真美術館
□後援:イタリア大使館/イタリア文化会館

「黒」と「白」を見事に操り、強烈なハイ・コントラストで「死」と「生」に立ち向かったマリオ・ジャコメッリ(1925-2000)。「ホスピス」「スカンノ」「神学生たち」「大地」などの代表作から、最も詩的なシリーズ「シルヴィアへ」まで約220点を紹介し、写真の未来を指し示す作家の本質に迫ります。

◎お問い合わせ>>> パルコ 03-3477-8820

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月5日(火) → 5月6日(月) [振休]

アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密

Erwin Blumenfeld a hidden ritual of beauty

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社
□協賛:株式会社資生堂/凸版印刷株式会社/東京都写真美術館支援会員 □協力:セレクションD.P.I.

当館では、『ハーバース・バザー』や『ヴォーグ』等のファッション誌を中心に活躍した、アーウィン・ブルーメンフェルド(1897-1969)の国内初の個展を開催します。本展覧会はブルーメンフェルドのご遺族によって、1930年代のヴィンテージ・プリントや、カラー復元された美しいファッション写真などが集められ、パリのジュ・ドゥ・ポーム美術館に先じて、約290点を日本初展示するものです。シュルレアリスムからヌード、ファッションまで、多くの写真家に影響を与えたブルーメンフェルドの表現ですが、その影には二大戦に翻弄され、時代に応じて活動の場を選ばざるを得なかった作家の苦悩が存在します。作家の活動を通し、時代背景、思想などに視点を向けると、美しい表現の根底にある精神が見えてくるのです。華やかな作品に隠された美の秘密をぜひ探してみてください。



ダナ・バルファムの広告、1950年頃
©The Estate of Erwin Blumenfeld 東京都写真美術館蔵

"Erwin Blumenfeld: a hidden ritual of beauty" is organized by Tokyo Metropolitan Museum of Photography in special collaboration with Nadia Blumenfeld-Charbit, The Blumenfeld Family and Jean-Louis & Mado Mellerio. The exhibition is curated by Nadia Blumenfeld-Charbit and Harumi Niwa, curator of TMMOP.

❖ レクチャー「美の秘密を語る」

日時:3月5日(火) 16:00~17:30 定員:50名
出演:ナディア・ブルーメンフェルド・シャルビ(展覧会協力者・作家ご遺族)
※本展覧会の半券をお持ちの方に当日10時より整理券配布。番号順入場、自由席。逐次通訳付き。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

B1F

5月18日(土) → 6月2日(日)

第38回JPS展

□ 一般700円 □ 学生・65歳以上400円 □ 高校生以下無料

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で38回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロ写真家も生まれています。

◎お問い合わせ>>> 日本写真家協会 03-3265-7453

平成25年度東京都写真美術館コレクション展

「写真のエステ - 五つのエレメント」

The Aesthetics of Photography - Five Elements

3階展示室 2013.5.11(土) - 7.7(日)

当館では毎年テーマを設けて、コレクションから選りすぐられた名作をご紹介します。今年のテーマは「写真のエステ」です。19世紀の初期写真から現代作品まで、写真の美をめぐって、3期にわたってさまざまな表現傾向をご紹介します。「エステ」といえば「美容」を思い浮かべますが、本来、「エステ」という言葉は「aesthetics(エステティクス)」の略語で、「美学」を意味します。本展では、美術館とは美的価値を探究し提示する場であるという本質に立ち返り、「写真の美しさはどこにある？」をテーマに、写真のエステティクスについて考えます。

1期目となる本展では、「光」「反映」「表層」「喪失感」「参照」という5つのキーワードを手がかりとして作品をたどりながら、「美」をめぐる数々の表現に目を向け、そのたたずみや趣きを味わってみてください。きっと今までと異なる写真作品の感じ方が開かれてくることでしょう。

#1 光

luminous

光は始原であり、生命を与えるもの。暗い部屋のなかに外界からの光が注ぎ、像を結ぶことが写真装置の本質である。



友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引
一般 500 (400) 円 / 学生 400 (320) 円 / 中高生・65歳以上 250 (200) 円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
□主催：東京都 東京都写真美術館

#2 反映

reflection

水に映る光の像、ガラスや窓に映る世界。イメージは現と幻の境界にたどられ、どちらともつかない情趣や感覚、豊かな重なりあいを生み出す。



#3 表層

surface

物質の質感、皮膚感。ものの表面とディテールへのフェティッシュな感覚。そしてモノクロームの映画紙の表層に色彩をのせる「化粧」をほどこすことで、外国人を魅了したエキゾチックな明治期の横浜写真。



#4 喪失感

sense of loss

廃墟や昔の記念写真。失われた時の痕跡は人の記憶や情動をゆさぶる。写真をとおして人は取り返しのつかない時間の流れに思いをはせる。



担当学芸員によるフロアレクチャー
第2・4金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント
※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。

#5 参照

reference

ひとつのイメージは他のイメージを源泉として未来に再生される。ひとつのイメージは過去の視覚文化の歴史とつながっている。



- 川内倫子《イリディッセンス》より 2009年 発色現像方式印画
- 佐藤時啓《Breath-graph》より [#155 YUBARI] 1992年 セラチン・シルバー・プリント
- 山脇巖《球体に反射する室内》1932年 セラチン・シルバー・プリント
- スティールフリード&アンデルセン社《題不詳(芸者像)》明治初期 鶏卵紙に人工着色
- クリスチャン・ボルタンスキー《Gymnasium Chases》より 1991年 フォトグラビア印刷
- 森村泰昌《なにものかへのレイエム(創造の劇場/パブロ・ピカソとしての私)》2010年 セラチン・シルバー・プリント

7月以降に開催するコレクション展

「写真のエステ - 作り方のエレメント」(仮称)

2013.7.13(土) - 9.16(月・祝)

撮影アングル、光のあつかい、パンフォーカス/ディファレンシャルフォーカス、そして、撮影後の作業(暗室ワークや画像処理)など、写真の制作技術の側面からコレクションの「エステティクス」を捉えます。

「写真のエステ - 自然のエレメント」(仮称)

2013.9.21(土) - 11.17(日)

木・火・土・金・水という自然界の物資及びそれらの物質にまつわる隠喩に基づきコレクションを紹介します。

TOMOKO YONEDA

米田 知子 *'we shall meet in the place where there is no darkness'*

やみ 暗なきところで逢えれば(仮称)

2階展示室

2013.7.20(土) - 9.23(月・祝)

日本を代表する写真家の一人である米田知子の個展を開催します。米田の作品は、記録という写真の根本的な役割をベースにしなが、現実に見えている対象だけではなく、物や場所が持つ記憶や歴史を、その背景に投影しています。たとえば、「Scene」シリーズの作品(写真6)では、南国サイパンの穏やかな風景の先には、戦争末期に民間人が身を投げた崖に巡りつきます。新作「サハリン島」(写真2)では、静かな一本道の途中に日露戦争後の日本とロシアの国境を捉えています。一見するとただの美しい風景として見逃してしまいがちですが、米田は、写真というメディアの持つ特質を最大限に生かしなが、鑑賞する側に実際に見えているものの本質をあらためて問いかけています。本展では近作を中心に展示し、現在進行形で取り組まれる彼女の仕事を紹介します。



1



3



6

時は我々が何もしなくても流れて行く。
ただじっとしていても、鼓動と血脈があるように
ただ生きている。

空をみて、雲は早くも遅くも常に
形を変えて彼方へと消えていく。

何一つ、誰一人、
同じ場所(ところ)で、
同じ思いであるということは不可能だろう。

我々は目の前に写しだされた像を見ては
(無垢なき)観念 — を見いだす。

それは外から染められた
しかし内に秘めた 姿なき像である。

それは見えているのだが、
見えていないということと同じかもしれない。

見えないということは
見えているということに等しいかもしれない。

永遠ということは悲観的概念であり、
すべては永遠ではない — ことで
永遠を渴望する。

それに気づくのか、気がつかないか

'過去を支配するものは 未来をも支配し
今を支配するものは 過去をも支配する'※

全ては断片的なことではなく
相反しながらも、継続的なことである。

米田 知子

※George Orwell *Nineteen Eighty-Four* Penguin Books版より
翻訳は米田知子が行った。

米田知子 略歴

- 1989年 イリノイ大学シカゴ校芸術学部写真学科卒業
- 1991年 ロイヤル・カレッジオブアート(ロンドン) 修士課程修了
- 2001年 「手探りのキッス 日本の現代写真」 東京都写真美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
- 2005年 個展「記憶と不確かさの彼方」 資生堂ギャラリー/東京
- 2008年 個展「米田知子展—終わりは始まり」 原美術館/東京
- 2012年 「キエフピエンナーレ」/ウクライナ

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会 □協賛:株式会社資生堂 / 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社 / ライオン株式会社 / 清水建設株式会社 / 大日本印刷株式会社 / 株式会社損保ジャパン / 日本テレビ放送網 / 東京都写真美術館支援会員 ほか □協力:株式会社写真弘社

担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント

作家とゲストによる対談(会期中2回予定)、作家によるフロアレクチャーを開催します。

※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。

- 1) 「was here」より 2013
- 2) 「サハリン島」より北緯50度、旧国境 2012
- 3) 「Japanese House」より日本統治時代に設立された台湾銀行の寮、後の中華民国中央銀行職員の家(齊東街台北) 2010
- 4) 「積雲」より平和記念日・広島 2011
- 5) 「パラレル・ライフ」よりゾルゲを中心とする国際諜報団密会場所 東京宝塚劇場(クラウゼン ヴトケウィッチ) 2008
- 6) 「Scene」より道(サイパン島在留邦人玉砕があった崖に続く道) 2003

世界報道写真展2013

地下1階展示室 2013.6.8(土)-8.4(日)

昨年1年間に撮影された写真を対象にした「世界報道写真コンテスト」が、今年も2月にオランダのアムステルダムで開かれました。56回目の開催となる今年には10万3481点の応募作の中から55点が「現代社会の問題」「自然」「日常生活」など9つの部門で入賞を果たしました。応募人数は5666人(124の国と地域)に上り、入賞者は54人でした。同コンテストの入賞作品を展示する「世界報道写真展2013」が今年も6月から8月にかけて東京都写真美術館で開かれます。世界報道写真大賞2012にはスウェーデンのポール・ハンセン氏がパレスチナのガザ地区で撮影した作品が選ばれました。イスラエルのミサイル攻撃によって殺された2歳と3歳の子どもの遺体を抱きかかえ、悲しみと怒りをあらわにしながら歩く男性たちの姿を絵画的な光の中で捉えています。問題が複雑に絡み合っている出口の見えない現地の状況が伝わってくる作品です。「スポットニュース」「一般ニュース」の部ではパレスチナとシリアの惨状を写し出した作品が多くを占めることになりました。入賞者の1人、ダニエル・ベレフラク氏は東日本大震災から約1年後の昨年3月に大きな犠牲を払った岩手県の陸前高田市を取材、復興を目指す地域の人々や今も残る爪痕のさまざまな写真をし、組写真3位に入賞しました。今回のコンテストから「スポーツ」や「ポートレート」の部門が拡充され、より応募作品の傾向や表現を反映できるようになりました。紛争地や被災地のほかにも、国内のメディアでは日頃取り上げられない出来事や新しいニュースなど、本展でしか見られない作品がそろっています。本展は1年を通じて国外でも約100都市で開かれる世界最大規模の写真展です。



1.「世界報道写真大賞2012」

ポール・ハンセン(スウェーデン)ダーゲンス・ニューヘテル紙 パレスチナ・ガザ地区(=11月20日)

イスラエル軍のミサイル攻撃によって死亡した2歳と3歳の兄弟が葬儀のために伯父たちに抱えられモスクへと運ばれてゆく。自宅は破壊され父も死亡した。母は集中治療室で治療を受けている。

2.「スポーツ・アクション」の部 組写真2位

セルゲイ・イルニツキー(ロシア)EPA通信 ロンドン(=7月31日)

ロンドン五輪のフェンシング男子個人フルーレの16回戦でドイツのピーター・ジョビッチ選手と交戦するエジプトのアラエルディン・アブエルカセム選手(上)。

3.「一般ニュース」の部 組写真3位

ダニエル・ベレフラク(オーストラリア)Getty Images 岩手県陸前高田市(=3月7日)

津波で根こそぎにされた松の木が海岸沿いに散らばる。被災地では今も多くの人が仮設住宅で暮らす。政府は経済復興や人々の生活の立て直しを図る一方で瓦礫の処分という問題に直面している。

4.「スポーツ・アクション」の部 単写真1位

ウェイ・ゾン・チェン(マレーシア)インドネシア、西スマトラ州(=2月12日)

村対抗で激しく争うパチュ・ジャウィ(雄牛レース)は収穫時期が終わるころに行われる人気の競技だ。騎手は雄牛に括りつけられた道具に足を掛けしっかりと尻尾を握る。

5.「観察肖像」の部 単写真3位

イロナ・シュワルツ(ポーランド)リダックス・ピクチャーズ 米国・ボストン(=2月19日)

「アメリカン・ガール」は、特注で持ち主そっくりに作成された人形シリーズ。先祖の肖像画の前で、自分にそっくりな人形を抱えてポーズを取るカウラ。

6.「自然」の部 組写真1位

ポール・ニッケレン(カナダ)ナショナルジオグラフィック誌 南極、ロス海(=2011年11月18日)

コウテイペンギンはその羽毛から無数の泡を放出することで遊泳速度を3倍に高める能力を持つことが新たにわかった。しかしペンギンたちは、自らのコロニーや生態系を支える海氷の減少という大きな危機に直面している。

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催:朝日新聞社 | 世界報道写真財団 | 共催:東京都写真美術館 | ほか

※ 展覧会関連イベントを予定しています。

※ 詳細は決定次第、ホームページで発表します。

Film 『わすれない ふくしま』

“原発”がこの村、この家族を変えた…。強く生きる。今はそれだけ。

2011年3月11日、太平洋沿岸500kmにわたる大津波を招き、福島第一原発事故を引き起こした東日本大地震。ドキュメンタリー作家・四ノ宮浩は震災直後から福島県でカメラを回し続け、放射線に汚染された飯館村を起点に、そこから避難したある家族と、今も警戒区域で暮らす畜産農家の日常を記録。力強く生きる被災者の姿と現実を伝える。



© オフィスフォープロダクション

○上映スケジュール：2013年3月2日(土)～3月29日(金) ○料金：[当日券]一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方1,000円
○休映日：毎週月曜日 ○映画公式ホームページ http://wasurenai-fukushima.com/

Film 『ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの』

世界中で話題を呼んだドキュメンタリー映画がついに完結。

NYの1LDKのアパートから始まり、寄贈先の国立美術館から全米50州へと拡散する夫婦の膨大なアートコレクション。市場価値ではなく、自分たちの審美眼で現代アートを支えてきた夫婦の人生を通じて、現代アートを取り巻く人々の思いや、現代アートそのものの意味に鋭く切り込む。



Copyright © 2013 Fine Line Media, Inc. All Rights Reserved.

「ハーブ&ドロシーふたりからの贈りもの」日本上映事務局 080-3733-6470 (平日10:00～17:00)
○上映スケジュール：2013年3月30日(土)～ ○休映日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ○上映時間：未定
○料金：[当日券]未定 【映画公式ホームページ】http://www.herbanddorothy.com/jp/ ※上映スケジュール等、決定次第ホームページにてお知らせ致します。

1F ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』
r CAFÉ BIS (カフェ・ビス)』

【営業時間】
○ナディッフ バイテン/10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
【お問い合わせ】Tel.03-3280-3279
○CAFÉ BIS/11:00-18:00(ラストオーダー17:30)
【お問い合わせ】Tel.03-6721-7474

NADiffのロゴが入った色鉛筆は、描くだけでカラフルな4色が楽しめます。



ナディッフ色鉛筆 各294円(税込)

カカオ70%の有機チョコレートを使ったブラウニー。チョコの味をお楽しみください。



ブラウニー 210円(税込)

友の会 Support

展示会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限は、入会から1年間(翌年同月末日まで)
※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中は何度でもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・誘致展	割引 ※ご利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
その他	※ニュース「eyes」送付 ※1階ホールの割引(上映作品により異なります) ※観覧ポイントをとめて特典と交換 ※コスモ渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など(一部商品は除きます。) ※WINE MARKET PARTY恵比寿店でご購入金額から5%割引(一部商品は除きます、他の優待サービスとの併用不可)

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- 特別賛助会員 — (株)キヤノン (株)資生堂 (株)ニコン (株)キタムラ (株)キヤノンマーケティングジャパン(株)大日本印刷(株)凸版印刷(株)富士フイルム(株)リコー (株)I&S BBDO (株)AOI Pro. (株)アサツー ディ・ケイ 旭化成(株)朝日新聞社 (株)朝日新聞出版 朝日生命保険(相) アサヒグループホールディングス(株)朝日放送(株)アスкул(株)(株)アトよみうり(株)アマナホールディングス(株)岩波書店(株)潮出版社 内田写真(株)(株)栄光社 (株)ADKアーツ NECディスプレイソリューションズ(株)NHKアート NHK営業サービス(株)(株)NHKエデュケーション(株)NHKエンタープライズ(株)NHKグローバルメディアサービス(株)NHK出版(株)NHKビジネスクリエイティブ(株)NHKプロモーション(株)NHKメディアテクノロジー(株)NTTデータ(株)NTTドコモ NTT都市開発(株)エプソン販売(株)エルメス財団 オリックス(株)オリンパスイメージング(株)オンワードホールディングス 科研製薬(株)カンオ計算機(株)鹿島建設(株)(株)角川グループホールディングス (株)青春出版社 積水ハウス(株)全日本空輸(株)ソニー(株)第一生命保険(株)第一法規(株)ソニー(株)ダイキン工業(株)(株)ダイケングループ 大成建設(株)(有)タカ・インシヤギャラリー 高砂熱学工業(株)(株)高島屋 (株)宝島社 (株)竹中工務店 玉川大学芸術学部 (株)丹靑社 (株)中央公論新社 (株)コーセー コダック(株)小山登美夫ギャラリー(株)ザ・アール サッポロホールディングス(株)三機工業(株)産経新聞社 サントリーホールディングス(株)(株)サンライズ (株)サンローズィ (株)ジェイアール東日本企画 JSR(株)JXホールディングス(株)ジェイティービー印刷(株)シグマ (株)実業之日本社 信濃毎日新聞社 清水建設(株)(株)写真弘社 写真の学校/東京写真学園 シャネル(株)(株)集英社 (株)主婦と生活社 (株)主婦の友社 (株)小学館 松竹(株)信越化学工業(株)(株)新潮社 (株)スタジオアリス (株)スタジオエムジー (株)スタジオジブリ 住友化学(株)東宝(株)(株)スリーポンド (株)生活の友社 セイコーホールディングス(株) (株)トキワ (株)徳間書店 戸田建設(株)(株)トータルプランニングオフィス トヨタ自動車(株)(株)トロンマネージメント (株)ニコンイメージングジャパン 日外アソシエーツ(株)日油(株)日活(株)(株)日経BP 日産自動車(株)(株)日本カメラ社 日本空港ビルデング(株)日本経済新聞社 日本興亜損害保険(株)(株)日本広告社 公益社団法人 日本広告写真家協会 日本コルマー(株)(株)日本色材工業研究所 日本写真印刷(株)公益社団法人日本写真家協会 公益社団法人日本写真協会 日本写真芸術専門学校 一般社団法人日本写真作家協会 一般社団法人日本写真文化協会 日本大学芸術学部 日本たばこ産業(株)日本ビュレット・バックカード(株)(株)ニッポン放送 日本ロレックス(株)(株)ニューアートディフュージョン ノーリツ鋼機(株)(株)博報堂 (株)博報堂DYメディアパートナーズ (株)バス・コミュニケーションズ (株)ハースト婦人画報社 パナソニック(株)(株)バラゴン バリミキ びあ(株) ビービーメディア(株)北海道 写真の町東川町 東日本旅客鉄道(株) 光写真印刷(株)(株)美術出版社 (株)日立製作所 (株)日立物流 (株)ビックカメラ (株)ビデオプロモーション ヒノキ新薬(株)(株)ピラミッドフィルム (株)ファーストリテイリング 富国生命保険(相) 富士ゼロックス(株)(株)フジテレビジョン 富士電機(株)(株)双葉社 (株)ニコンイメージングジャパン (株)ブリヂストン (株)プリンスホテル (株)フレマン (株)文化工房 (株)文藝春秋 (株)ベネッセホールディングス ヘルボン(株) ベンタックスクリエイティング(株)北海道新聞社 (株)日本広告社 (株)堀内カラー 本田技研工業(株)毎日新聞社 (株)マガジンハウス ミヤ・デジタル・イメージング(株)丸善(株)(株)マンダム 三井倉庫(株)三井不動産(株)三越(株)三菱製紙(株)三菱倉庫(株)三菱電機(株)三菱UFJ信託銀行(株)(株)ミルボン (株)ニューアートディフュージョン ノーリツ鋼機(株) 明治安田生命保険(相) 森ビル(株) モルガン・スタンレーMUFG証券(株) ヤマトロジスティクス(株) ユサコ(株) USACO CORPORATION 横河電機(株)(株)吉野工業所 (株)ヨドバシカメラ 読売新聞社 ライオン(株) ライカカメラジャパン(株) リンモン ジャパン(株) モンブラン (株)ロボット (株)ワコウ・ワークス・オブ・アート (株)ワコール (株)ワッツ オブ トーキョー

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人

(平成25年2月現在・五十音順)